

生物多様性情報の収集・提供に向けた連携可能性について



(地独)北海道立総合研究機構

環境・地質研究本部 環境科学研究センター 小野 理

BirdBase



道総研・環境科学研究センターにおける生物多様性情報のウェブ発信

(いずれもhttp://www.ies.hro.or.jp/katsudo/kankyo_joho/WebGIS.htmlからリンク)

- ・北海道レッドデータブック (2003年開設)
希少種の生息・生育状況や市町村別分布マップなど
- ・北海道外来種データベース (2004年開設・2010年改訂)
外来種の実態・課題や分布マップなど
- ・BirdBase(アジアの鳥類分布データベース)
(2003年開設) 複数の調査機関の調査データを横断検索できるWebGISシステムなど

事例

BirdBaseの概要



URL <http://birdbase.ies.hro.or.jp/>

【開発】 科学技術振興機構(JST)と共同開発

【公開】 2003年日本語版、2004年英語版

【対象地域】 西アジアを除くアジア

【データの提供機関・概要】

環境省・生物多様性センター (財)日本野鳥の会
 パードライフインターナショナル
 道総研・環境科学研究センター

分布データ計 約 390千件
 (野鳥 約1300種・亜種)
 重要生息地・重要湿地データ、
 背景図など。



【機能】

- ①種検索
- ②地域検索
矩形や多角形で選択した地域の分布種リストを表示
- ③重要生息地表示
重要生息地と国立公園等の重ね合わせ表示、重要生息地の詳細情報へのリンク
- ④テキスト検索
- ⑤グループ内データ共有
観察データをサーバにアップロード、グループ内で分布情報を共有



【アクセス数】 年1万回程度(トップページ)

生物多様性情報の提供・発信における課題

【課題1】 経費

(北海道)システム維持経費は確保しても運用経費が不足。特にデータ収集や新OS対応のシステムバージョンアップ経費。持続的な運用体制と言えない状況。
 (共通) 国・自治体全体で見るとシステムへの重複投資の面も。

【対策の考え方1】 システムを共通化して経費節約、データ収集などに回せないか？

【課題2】 データ収集

(北海道)機能する収集システムを構築できず。
 (環境省)一部市民からのデータに限られ、収集範囲の広がりが不足。

【対策の考え方2】 自治体が地域版システムを運営し、地域のイベントなどと連携して収集範囲を広げられないか？

【課題3】 機関間連携

(共通) 異なるシステムでの情報共有には手間がかかる。
 (自治体)国のシステムへのデータ提供だけでは自治体としての成果が見えにくく、インセンティブ無し。

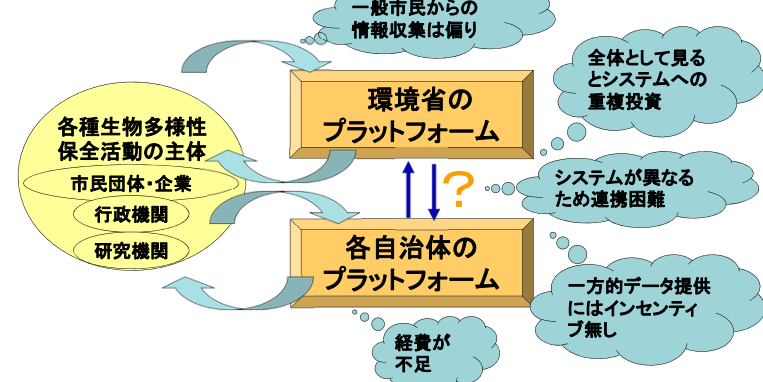
【対策の考え方3】 対策の考え方1と2で解決できないか？

生物多様性情報プラットフォームの構築

シンプルなプラットフォームのイメージ



現状の連携イメージ



望ましいイメージの検討

たとえばこんな連携は可能か？

